

「精肉すき焼き」を開いて17年の「北むら」



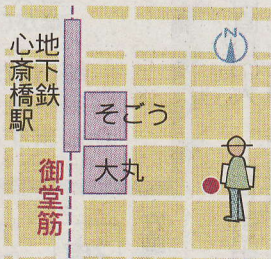
江戸時代に清水町としき店を営む、柳のしだれで栄えた東心斎橋で、4 する「北むら」を、東京の顔で「取材の価値はありますかね」とおっしゃり

# 御堂筋のからり

絵・文 熱田親憲

ながら、創業時代の話から始まった。明治14(1881)年、ここ清水町で創業しました。創業者は赤穂藩の与力の出身だったようです。ひと呼ばおいて、「明治天皇が明治5(1872)年に牛肉を食べたことから」と付け加えた。

そこで、すき焼きと牛鍋の違いが気になった。「牛鍋は関東中心で、割りじょうゆを使ったもの。すき焼きは関西中心で、原型となる「鋤焼」を保った、しょうゆと砂糖で焼くものです」と述べた。社長は「当店は、初めから鋤焼にこだわっています」と言っており、創業当時の話が掲載された50年前の新聞記事を出してこられた。要約すると次のように



ながら、創業時代の話から始まった。明治14(1881)年、ここ清水町で創業しました。創業者は赤穂藩の与力の出身だったようです。ひと呼ばおいて、「明治天皇が明治5(1872)年に牛肉を食べたことから」と付け加えた。

ながら、創業時代の話から始まった。明治14(1881)年、ここ清水町で創業しました。創業者は赤穂藩の与力の出身だったようです。ひと呼ばおいて、「明治天皇が明治5(1872)年に牛肉を食べたことから」と付け加えた。

ながら、創業時代の話から始まった。明治14(1881)年、ここ清水町で創業しました。創業者は赤穂藩の与力の出身だったようです。ひと呼ばおいて、「明治天皇が明治5(1872)年に牛肉を食べたことから」と付け加えた。

## 値ごろ感探して健全経営

出た。店主に許された2人は、牛肉を小さく切り、竹串にさして焼いたものを売った。これが大坂最初の洋食串焼き屋である。周辺の店の番頭や店員に評判がよく、大繁盛した。牛肉すき焼きの看板を清水町心斎橋筋東入るに掲げて見事独立し、新所帯を持ったという。時代劇をみているようだ。こんな創業者のソフトな話とは対照的なのが、2代目の北村春歩である。家業をきちんと守りながら、趣味の和漢印譜の収集では、盛岡の太田夢庵と双壁といわれるほどだった。後に篆刻作家となり、川柳、都々逸などもたしなみ、商人と文人の二つの顔を持っていた。彼の美兄は歌舞伎の4代目片岡愛之助であり、やはり文化人だった。春歩作品集を拝見して、書家である家内は篆刻への情熱にうなった。もしれない。

ながら、創業時代の話から始まった。明治14(1881)年、ここ清水町で創業しました。創業者は赤穂藩の与力の出身だったようです。ひと呼ばおいて、「明治天皇が明治5(1872)年に牛肉を食べたことから」と付け加えた。